

農産FAX情報 第3号

令和7年6月15日
ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 ばれいしょ

○疫病の防除

- ・疫病は着蕾期～開花始期に茎葉に発生し始め、多湿条件で急速にまん延します。
- ・北海道病害虫防除所のHPで公開している「ばれいしょ疫病初発予測（FLABS）」の「危険期到達日」を参考にほ場をよく確認しましょう。
- ・降雨などにより、ほ場に入れないことが予想される場合はダブルインターバル（14日間の防除間隔）効果のある薬剤を使用しましょう（表1）。

表1 疫病・夏疫病の防除例

薬剤名	該当病害名		希釈倍率(倍)		使用回数 (以内)	使用時期 (収穫前)	成分
	疫病	夏疫病	通常	ダブル インターバル			
グリーンダイセンM水和剤	○	○	400～500	-	10	7日前まで	マンゼブ
フロンサイドSC	○	○※	2000	1500	4	7日前まで	フルジナム
ホライズンドライフロアブル	○	○	1500	-	4	14日前 まで	シタコル ・ファモキサトロン
プロポーズ顆粒水和剤	○	○※	1000	750	5	7日前まで	ベンチアバリカルバイ ソフロピル・TPN

※ダブルインターバルでは夏疫病に登録がない

○害虫の防除

- ・ナストビハムシ、オオニジュウヤホシテントウの発生が確認されています。食害による被害が大きい場合は、防除を行いましょう。
- ・北海道病害虫防除所によると、アブラムシの発生は例年より早く、発生量が多いとされています。ばれいしょの葉裏をよく観察し、発見次第防除を行いましょう。

2 秋まき小麦

○赤かび病防除

- ・出穂にバラツキがあるほ場が散見されます。全ての穂に薬剤がかかるよう、複数回防除を実施しましょう。
- ・耐性菌の発生を抑えるため、同系統薬剤の連用は控えましょう。

○ムギキモグリバエについて

- ・一部ほ場で成虫の発生が確認されています。ほ場を確認し、発生が多い場合は薬剤散布を行ってください（表2）。

表2 ムギキモグリバエに登録がある薬剤例

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用回数	使用時期
エルサン乳剤	有機リン	1000 倍	4 回	7 日前まで
モスピランS L液剤	ネニコチノイド	4000 倍	2 回	7 日前まで

3 てんさい

○根腐病・葉腐病の防除

- ・6月下旬頃に初発し、高温多湿が2、3日続くと全面に広がります。排水不良や連作・短期輪作ほ場では6月中旬から早めに防除を行いましょう（表2）。

表3 根腐病、葉腐病の防除薬剤例

薬剤名	系統名	希釈倍率 (倍)	使用回数 (以内)	使用時期 (収穫前)	効果 の発現
ミリオネアフロアブル	SDHI	4,000	4	7日前まで	予防 治療
アミスター20フロアブル	QoI	1,500	3	14日前まで	予防 治療

○褐斑病の防除

- ・前年の多発生により今年も伝染源が多くなると推測されることから、発生があった場合は早めに防除を実施しましょう。

※マンゼブ剤の散布間隔は14日ですが、高温多湿の気象条件下では残効期間が短くなるため、高温多湿が続く場合は散布間隔を短くしてください。

○ヨトウガの防除

- ・北海道病害虫防除所によると、ヨトウガの発生期は例年より早く、発生量はやや多いとされています。ほ場を観察し、被害株率50%を目安に防除を行いましょう。

◎農薬散布時のドリフトに注意 ！

◎水分・塩分補給で熱中症対策 ！！

◎安全確認を行い、農作業事故防止 ！！！